

[0015]九州大学生体防御医学研究所年報 : 2000年

<https://doi.org/10.15017/6246>

出版情報 : 九州大学生体防御医学研究所年報. 15, 2001-09. 九州大学生体防御医学研究所
バージョン :
権利関係 :

生体防御医学研究所セミナー

本研究所主催のセミナーを昭和 60 年度より開催しており、平成 12 年度も引き続き遺伝学部門がセミナー係を担当した。平成 12 年 4 月より平成 13 年 3 月までに第 270 回から第 290 回までのセミナーが行われ、講演者および演題は次のとおりであった。

- 第 270 回 平成 12 年 4 月 14 日（金）
Dr. Serge Boiteux （フランス国立科学研究センター・原子力研究所）
“Repair of oxidatively damaged DNA bases in yeast and mammalian cells”
- 第 271 回 平成 12 年 4 月 21 日（金）
今泉和則（大阪大学医学部機能形態学）
「小胞体ストレスによる神経細胞死とアルツハイマー症」
- 第 272 回 平成 12 年 5 月 31 日（水）
織田信弥（国立九州がんセンター・臨床研究部）
“DNA mismatch repair activities in mammalian cells”
- 第 273 回 平成 12 年 6 月 5 日（月）
高橋正行（フランス国立科学研究機構・キュリー研究所）
「RecA タンパクによる相同 DNA 組換えの分子メカニズム：構造及び速度論的解析」
- 第 274 回 平成 12 年 6 月 5 日（月）
吉村昭彦（久留米大学分子生命科学研究所）
「サイトカインシグナルの制御機構」
- 第 275 回 平成 12 年 6 月 8 日（木）
住本英樹（九州大学大学院医学研究院・分子病態学分野）
「活性酸素生成型 NADPH オキシダーゼの活性化と細胞極性決定の分子機構」
- 第 276 回 平成 12 年 6 月 8 日（木）

福永理己郎（大阪大学大学院医学研究科 B 3）

「細胞増殖・分化のシグナル伝達機構　・　プロテインキナーゼ経路の解析を中心に」

第 277 回　平成 12 年 6 月 8 日（木）

加藤順也（奈良先端科学技術大学院大学・バイオサイエンス研究科）

「G1 制御因子と細胞増殖の調節」

第 278 回　平成 12 年 7 月 3 日（月）

Dr. Peter Wernet (Heinrich-Heine-University Medical Center, Germany)

“DC cells in cord blood”

第 279 回　平成 12 年 9 月 21 日（木）

夏目徹（科学技術庁ゲノムフロンティア次世代プロテオーム解析プロジェクト）

「ポスト・ゲノムシーケンス時代のタンパク質相互作用解析　・　質量分析計をナベカマのように使う」

第 280 回　平成 12 年 10 月 11 日（水）

谷内一郎（Howard Hughes Medical Institute, New York University Medical Center）

「CD4 サイレンサーに結合する転写因子の同定とその機能」

第 281 回　平成 12 年 10 月 10 日（火）

Dr. Jean Cadet (French Atomic Energy Commission)

“Oxidative damage to DNA: measurement and repair”

第 282 回　平成 12 年 10 月 31 日（火）

辻本賀英（大阪大学大学院医学系研究科）

「Bcl-2 ファミリーたんぱくによる細胞死の制御」

第 283 回　平成 13 年 1 月 26 日（金）

竹内恒成（名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻）

「神経系形成過程における細胞接着分子と細胞骨格（Ig スーパーファミリー TAG-1 の機能とアクチン結合分子 Clipin の機能）」

- 第 284 回 平成 13 年 2 月 26 日 (月)
Dr. K. Christopher Garcia (Stanford University School of Medicine)
“Structural biology of ligand recognition by T cell and cytokine receptors”
- 第 285 回 平成 13 年 2 月 26 日 (月)
Dr. Christophe Benoist (Joslin Diabetes Center, Harvard Medical School)
“Novel uses of transgenic mice to study immunity and autoimmunity”
- 第 286 回 平成 13 年 3 月 2 日 (金)
水野健作 (東北大学理学研究科・生物学専攻)
「アクチン細胞骨格を制御するシグナル伝達」
- 第 287 回 平成 13 年 3 月 9 日 (金)
伊藤隆司 (金沢大学がん研究所)
「蛋白質間相互作用へのゲノム的アプローチ：機能プロテオミクスを目指して」
- 第 288 回 平成 13 年 3 月 12 日 (月)
谷口維紹 (東京大学医学部免疫学)
「生体防御系の制御：弱いシグナルと強い応答」
- 第 289 回 平成 13 年 3 月 21 日 (水)
Dr. Wim Vermeulen (Erasmus University Rotterdam)
“Molecular dynamics of nucleotide excision repair and transcription in living cells”
- 第 290 回 平成 13 年 3 月 29 日 (木)
高橋信弘 (東京農工大学農学部・応用生物科学科)
「プロテオミクスの手法を用いた蛋白質複合体の網羅的解析」